

## 河川管理用機械設備の集中管理システムにおける信頼性の検討

建設省 土木研究所 正会員 服部 達也  
 同 上 正会員 吉田 正  
 同 上 正会員 森下 博之

### 1. 背景

近年、我が国では、河川氾濫想定区域内の人口・資産の集中が著しく、排水ポンプ設備・水門設備を中核とした河川管理設備は益々その重要性が増加しつつある。しかし、河川管理施設数が増大する一方で管理・操作要員の確保難等の傾向が顕著となり出水時の管理体制の確保が課題となってきた。

出水時に迅速かつ合理的な管理体制を可能とする方法として、一定地域の施設に光ネットワークを利用して集中的に監視・制御するシステムの採用が検討されている。しかし、これは、施設の機能を発揮させるための機器点数が増え、システムが複雑となるばかりでなく、運転操作の機能を一部に集中させることになるため、一ヶ所の故障がシステム全体に影響を及ぼす可能性も内包している。そこで、システムの信頼性面からの検討が不可欠である。

### 2. 目的

現在検討している集中管理システムは、各河川管理施設（子局）を統括し制御を行う“河川管理所（親局）”、子局内に設置する“通信用機器”、親局・子局間通信を行う“伝送路”からなる。そこで、本調査では、主に親局・子局内の機器にターゲットを絞り、その信頼性面の問題点を抽出するために、FMEA（Failure Mode and Effects Analysis：故障モード影響解析）を実施した。

### 3. 調査方法

#### 1) 調査概要

本調査では、最初に集中管理モデルシステムを設定した。つぎにモデルシステムの各構成機器に対して、FMEAを実施し、弱点機器を抽出した。最後に、それらの信頼性向上策について検討した。

#### 2) モデルシステム設定

解析対象モデルシステムは、集中管理システムとして実際に運用しているシステム（荒川第一調節池管理設備）を参考に設定した。モデルシステムは、図-2に示すように1親局により排水機場と河川ゲートの2子局を管理するものとした。親局の機器構成及び機能は、実際のシステムと同一条件とした。モデルシステムのシステム構成図を図-3に示す。

#### 3) FMEAの実施

FMEAは、目標を“治水機能に関わる集中管理機能の維持”とし、展開レベルを“各機器ごとの管理可能レベル（機器または取り替え部品レベル）”としてとりまとめた。例を表-1に示す。



図-1 調査方法

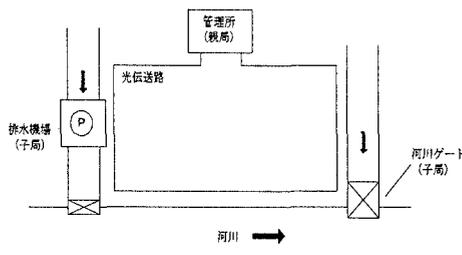


図-2 モデルシステム概要図

キーワード：信頼性・FMEA・定性分析・集中管理・河川管理設備

〒305 茨城県 つくば市 旭-1 Tel：0298-64-2211 Fax：0298-64-0564

